

1988	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
10	•	•	•	•	•	•	1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31	•	•	•	•	•

● 毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

# 備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。  
 そなえる…用意する、そろえる、用心する  
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。  
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛  
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。  
 そなわる…準備ができる、身に付く  
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



かわさき  
 防災広報紙

NO.

50

昭和63年9月30日発行  
 発行●川崎市  
 編集●土木局防災対策室  
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地  
 TEL.(044)200-2111内線2841

地震や台風などの災害から川崎市を守るのは、市民一人ひとりのつとめです。  
 災害時の初期消火、応急手当、あるいは家具類の転倒防止や避難など。  
 どれひとつとっても個々の生活と密接な関係があり、  
 市民の皆さんの自主的な活動がなければ実現できないものばかりです。  
 幸い川崎市は近年大きな被害を受けていません。しかしそれは見方を変えれば、痛みを忘れ始めているということ。  
 ここに落とし穴があります。忘れた頃にやってくる災害のために、毎月「備える」を読んで  
 各自の防災対策を考えてください。今月で50号。今後も必要な情報を市民の皆さまにお届けしてまいります。

川崎市民全員が、  
 防災対策委員です。





### 「備える」50号発刊によせて

市民の皆さんの生命、身体及び財産の安全確保は市政の基本であり、私の願いであります。しかしながら現代社会は科学技術の発展により大きく進歩しましたが、一旦大きな災害に見舞われるとその被害は、予想以上に大きくなることは、昭和53年6月の宮城県沖地震、昭和58年5月の日本海中部地震などでも十分おわかりのことと思います。

また、最近の伊豆大島の噴火や、伊豆半島沖の群発地震はいまだ記憶に新しいところです。これは災害への備えをややもすると忘れがちな人間に対し、自然が打ち鳴らした警鐘とも言えるのではないのでしょうか。

私たちは、こうした過去の災害が残した何ものにもかえがたい教訓を決して忘れることなく、家庭で、職場で、そして地域で、何をなすべきかを共通の課題として考え、日頃の備えを充実しておく必要があると思います。

備えあれば憂いなしの古く新しい言葉を思いかえし、防災広報紙「備える」をより一層充実させ、親しみのもてる紙面づくりに努めますので、災害に対する関心の高揚と日頃の防災活動にお役立ていただければ幸いです。



川崎市長 伊藤 三郎

防災広報紙「備える」は昭和59年7月に発刊してから、まる4年を経過しました。この間、「備える」をお読みいただいたり、自主防災組織の活動の中から、防災対策室に寄せられた声をとりあげました。皆さん方も、防災についてふだん考えていること、市の防災対策への要望などがありましたら、防災対策室まで一報下さい。

子供に「地震直後は状況を判断して安全な行動をとり、落ちついたら家があった場所で待ち合せましょう」と約束している。まだ11才なので、その時々大人の言うことを聞くよう教えているが、それでよいのだろうか。(川崎区)

私の家にはスポーツ事故で完全四肢麻痺の21才の息子がおります。そのため災害が発生し避難しなければならぬとき、どうなるのか大変心配です。家族だけの力ではどうすることもできません。(幸区)

近くの避難場所までの道を歩いて行くか、一方の道が通れない場合にどの道を通るか。また近くの避難場所の他にどこに別の避難場所があるかなど知っておく必要があるのではないかと。一度町内や共同住宅で歩いてみるとういのは。(多摩区)

水を何リットルも用意しておくのではなく、汚ない水も飲料水になる手軽なろ過装置を備えておくなど、今の科学の進歩を大いに取り入れることが必要だと思ふ。(川崎区)

各家庭まで聞ける緊急放送設備を設置し、訓練放送や、町内あるいは市の広報にも活用できればと願っています。(多摩区)

体験談 50  
自主防災体制の確立に向けて  
川崎区渡田二丁目町内会 自主防災委員会 加藤 繁義さん  
つい最近の伊豆半島東方沖での群発地震の発生で一層不安が高まる中に、今大きな地震の発生として最も本県に多くの被害をもたらすであろうと言われる東海地震、或いは南関東地震の発生が伝えられています。24時間体制の観測によつて、東海地震マグニチュード8クラスの巨大地震なら発生予知が可能とのことであり、市民の一人として大変ご強く感じます。

危機管理に対する意識改革を  
富岡区富岡第一ハイハイ防災事務局 飯田 ヨシ子さん  
日本人のリスクマネジメント(危機管理)に対する対応の中で、生命保険や地震・火災に対する災害保険等の加入率は95%にも及んでいるが、災害の時、本人がいかに対処するかの危機管理は、低いのではないだろうか。

現代の子供たちは、停電という経験も少しし、飽食の時代にあつては、食べる物が無いという経験を持つ子も稀である。私たちが親にしても、戦後40数年を経ると、災害時の経験の少い親も多くなり、いざという時、昔の人たちのような力が発揮できるかどうか疑問となる。

私共の地域では、年1回、9月に防災訓練を大々的に行っている。(各班16班)毎の訓練は、適時行っている。約1,000世帯中、留守宅などを含めても、約7割の参加世帯がある。これは、住民への災害に対する意識啓発が効果を奏した事もあるが、住民一人ひとりの意識の高さが評価されるのではないだろうか。

大地震について言われ始めて10年が経ち、初めの頃の緊迫感が薄れてしまった。改めて点検してみると、家族の年齢も環境も変化していることに気づかされました。(川崎区)

私の住んでいる町の住民は防災意識がなく連帯感もない。すべて「我関せず」連帯感を高めるよい方法はないか。(高津区)

防災対策が何もできていませんでした。これから少しづつとこのえて行きたいと思ひます。(麻生区)

知っているようで知らないのが消火器の使い方。災害がおきた時、避難民のための救済方法、食料の確保など、市の対策をもっと広報してゆくと、より住民の理解が深まると思ひます。(中原区)

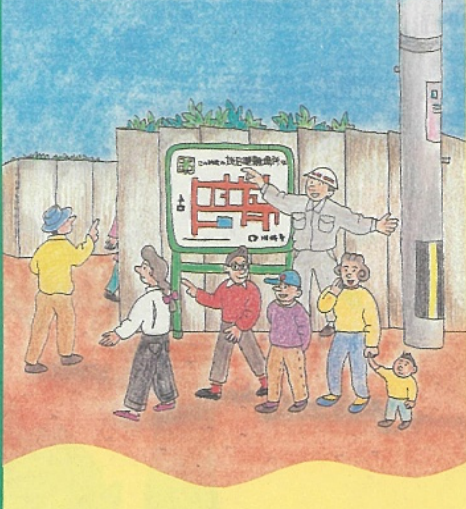
家が古いので地震に耐えられるかどうか心配ですが、火災だけは防ぎたいと思ひます。あわてないつもりですが……。(幸区)



三角巾の使い方(川崎区)



川崎駅前訓練(川崎区)



## 川崎市総合防災訓練実施

9月1日(木)の防災の日に、高津区二子の多摩川河川敷を中央会場として、市内各所で防災訓練が実施されました。暑い中で熱心に訓練にとりこんでいただいた市民の皆さん、小中学生の皆さん、どうもありがとうございました。

この貴重な体験を、わが家・わが町の防災に生かしていただきたいと思います。



中央会場(高津区)